

とかち鹿追ジオパーク現地審査報告書

JGC：高木秀雄、JGN：原田卓見、熊谷誠

【主な対応者】

吉田弘志（しかおいジオパーク推進協議会会長・鹿追町長）、三井福成（同会副会長・商工会長）、佐藤雅仁（同会監事・農協代表理事組合長）、山岸宏（同会監事・観光協会会長）、小林潤（同会委員・教育委員会教育長）、阿久澤小夜里（同会委員・ボレアルフォレストガイド）、小野有五（同会委員・北星学園大学教授）、澤田結基（同会委員・福山市立大学講師）、鳴海直行（同会幹事会幹事長・しかおいコンシェルジュ）、松本宏樹（同会幹事会副幹事長・株式会社北海道ネイチャーセンターガイド）、河辺哲也（同会幹事会幹事・農協営農部長）、佐々木康人（同会事務局・社会教育課長）、大西亮一（同会事務局・社会教育課社会教育係長）、舟越洋二（同会事務局・社会教育課社会教育係）、大西潤（同会事務局・社会教育課社会教育係）

【現地審査のまとめ】

「火山と凍れが育む命の物語」という独特の全体テーマに沿い、約 4 - 1 万年前の然別単成火山群によりせき止められた然別湖の、大変よく保存された自然をさまざまな角度から楽しめる地域である。特に、風穴や永久凍土、氷室などがテーマになっている点は他のジオパークにない特徴である。小中高一貫教育の中での、ジオパークの考え方を盛り込んだ「新地球学」という独自の教科書に沿った自然体験プログラムや、姉妹都市ストニイプライン（カナダ）との連携プログラムなど、すべての小中高で自然体験を盛り込みながら地球と人間のかかわりを学ぶ子どもたちの教育プログラムはきわめて優れている。

一方で、拠点施設や案内板、ガイドブック、ガイドマップ等の準備はこれからの段階である。見どころであるジオサイトの紹介はもちろん、本地域がジオパークであることを周知する情報ツールの整備を、計画的かつ早急に整備することが求められる。

1) ジオパークの名称とテーマ

「火山と凍れ（しばれ）が育む命の物語」は、本地域の特徴をよく表している。しかし、火山と、その恵みによる農業との結びつきがまだ分かりにくい。然別エリアと鹿追エリアを結ぶストーリーとそれに基づくジオツーリズムの設定が求められる。

2) ジオサイトと保全

然別エリアは大雪山国立公園内にあるが、ネイチャーセンターのプロのガイドにより、その自然が厳密に保護・保全されている。ジオサイトは、ジオの多様性という面では、地形学的・生態学的サイトはかなりみられるが、地質学的サイトの設定という点では、まだこれからである。ジオサイトの中には、風雨によって改変してしまう恐れのあるものや立

入りを制限する必要があるもの、郷土資料館・美術館など一見してジオストーリーとの関連を理解しにくい施設なども含まれており、サイトごとに実際の訪問を想定した受入態勢の整備、ジオサイトとサテライト施設との線引きなどの見直しが必要である。

3) 教育・研究活動

本地域で特筆すべき点は、10年前より文科省の研究開発学校の指定を受け、町内すべての小中高一貫教育の中で進められている「新地球学」である。昨年度から、ユネスコが提唱する持続的発展教育（ESD）やジオパーク構想をもとに防災教育を取り入れるなど、非常に質の高い教育プログラムが展開されている。一方、本地域のジオストーリーを楽しむ大人向け学習会の取組みは緒に就いたばかりのようである。地域住民がジオストーリーを楽しむ環境を早急に築き、かつ継続的に推進していくことが求められる。

4) 管理組織・運営体制

鹿追町長を会長として、行政・農協・商工会・観光協会・教育関係者・プロガイドなどで構成する推進協議会があり、町全体でジオパーク構想を進める体制ができている。素案ながらも基本・事業計画もあり、継続的なジオパーク運営の意欲もうかがえる。今後は、その着実な遂行を期待したい。

5) 地域の持続的発展とジオツーリズム

然別湖周辺では、プロのガイドが年間2万人を超える観光客に自然ガイドや環境教育、アクティビティを提供している実績がある。体験型学習のノウハウの豊富さやリスクマネジメントの確かさなど、すでに質の高いガイド体制が整っている。一方、鹿追エリアでのガイド体制はこれからの段階であり、学習会による知識習得やプロガイドとの交流等を通じて、自分の地域を自分の言葉で語ることのできるジオガイドを育ててほしい。

また、ジオツーリズムを推進するうえで、ウェブサイトやガイドブック、ガイドマップ、看板及び拠点施設などの情報ツールの整備は欠かせない。ネットワークブランドの維持という観点からも、計画的かつ早急な整備が必要である。ただし、どのツールをどのように活用するかはその地域の特性にもよるので、戦略的視点をもって取り組まれない。

6) 国際対応

ガイドや看板、ガイドブックなどへの外国語対応はこれからであるが、カナダ学の導入により、そのポテンシャルは高い。

7) 防災・安全

ツアーにおけるリスク対応については、プロガイドが十分な見識を持っている。また、新地球学の中でも、火事や地震、火山などに関する防災教育が体系的に盛り込まれている。